

休耕田を活用したコゴミの省力化栽培について

林業試験場

[研究のねらい]

山菜類は半日陰地で湿潤な場所を好むため、日当たりが悪く野菜には不利な山村地域の休耕田が逆に栽培適地となり、労力や手間をかけずに栽培できる可能性があります。そこで、人気の山菜であるコゴミに着目し栽培試験を行いました。

[研究の成果]

- ①表1のA、B、Cの区分で定植し、3年間の生長量や収穫量等を調査した結果、枯死したり収穫できなかった試験区はなく、草丈長も1m以上となったことから、休耕田でも栽培が十分に可能であることがわかりました。
- ②収穫量は、従来型栽培区(A)が多くなる傾向を示しましたが、無耕耘・無施肥の省力化栽培区(C)でも、ある程度の収穫が見込めることがわかりました(図1)。
- ③また、無灌水・無農薬でも収穫ができ、多年草で繁殖力が旺盛なため、自然に増殖し植え替えが不要なこと。収穫物が軽く高齢者でも軽作業であることもわかりました。

[成果の活用面・留意点]

- ①育苗はランナーによる増殖が可能です。最適なランナーの長さ等について継続して研究中です。
- ②収穫期間が短いため、標高差等を利用し収穫期間をずらす栽培方法などが考えられます。

表1 コゴミ若芽の収穫量及び草丈量(2008年:定植3年目)

試験区	耕耘・畝立	株間 (cm)	株数 (株)	施肥	欠株数 (株)	収穫本数 (本/株)	収穫量 (g/株)	若芽重量 (g/本)	草丈長 (cm)	備考
A	畝高(10cm)	50	10	元肥・追肥	0	6.9	49.4	7.2	119.3	従来型栽培
B	畝高(10cm)	50	10	なし	0	5.7	40.2	7.1	119.4	
C	なし	50	10	なし	0	6.7	38.7	5.8	108.4	省力化栽培

元肥:牛糞(3kg/m²) 追肥:N肥(10g/m²)年2回(3月・7月) 各試験区:畝幅120cm、2条植え、条間50cm

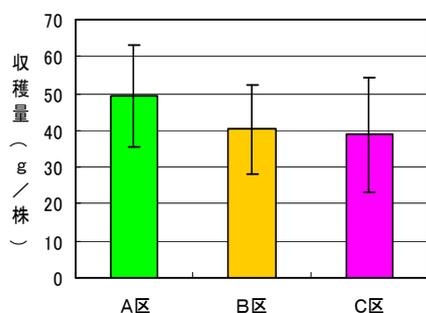


図1 1株当たりの収穫量(2008年)



図2 栽培実証試験地(かつらぎ町)



図3 収穫期のコゴミ

(問い合わせ先 TEL:0739-47-2468)